

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Factor structure of the Edinburgh Postnatal Depression Scale in the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: エジンバラ産後うつ尺度の因子構造: エコチル調査より

ユニットセンター(UC)等名: 富山UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Scientific Reports

年: 2020 月: 7 巻: 10 頁: 11647

筆頭著者名: 松村 健太

所属UC名: 富山UC

目的:

エジンバラ産後うつ尺度(EPDS)は産後うつのスクリーニングに最も良く使われる質問紙である。しかしながら、研究間で、その因子構造(項目間のグルーピング)には大きな不一致がある一方で、産後の複数時点で測定している研究も少ない。そこで本研究では、産後の二時点におけるEPDSの因子構造を調べた。

方法:

エコチルに参加している単胎の母親91,063名をランダムに二群に分け、一方では、探索的因子分析を用い、産後1、6か月それぞれの時点におけるEPDSの因子構造を抽出した。もう一方では、抽出された因子構造に加え、過去の代表的な研究から得られた因子構造について確認的因子分析を行い、モデル適合度を比較した。

結果:

確認的因子分析の結果、今回の探索的因子分析より得られた3因子構造、すなわち、不安(質問3, 4, 5, 6)、抑うつ(質問7, 9, 10)、快感消失(質問1, 2)、のモデル適合度が総合的に最も高かった。これら3因子で全体の分散の65%を説明でき、各因子におけるクロンバックの $\alpha$ 係数はいずれも0.70を超えていた。産後1、6ヶ月で、因子構造はほとんど一緒であった。これまでの研究から得られていた3因子構造も、1、2因子構造と比べ、概して高い適合度を示していた。

考察:(研究の限界を含める)

本研究より、EPDSは3因子構造とした場合にモデル適合度が高いと分かった。これまで色々な因子構造が抽出されてきた理由としては、因子抽出時の不適切な設定、すなわち、主成分法を用いた因子の抽出、因子数は固有値が1以上というカイザー基準、直交回転を用いた因子回転、に起因すると考えられた。抑うつの表現形の文化差はEPDSのカットオフ値に影響を与えているものの、因子構造には与えていないと考えられた。本研究の限界としては、産前のEPDSのデータがなかったことである。

結論:

EPDSは、不安(質問3, 4, 5, 6)、抑うつ(質問7, 9, 10)、快感消失(質問1, 2)、の3因子構造であると結論づけられた。